

道徳だより



テーマ：育成学級の道徳科の授業の工夫

令和5年12月
京都市立道徳教育研究会
広報部
(第6号)

◆児童の実態に合った絵本を教材化

育成学級では、教科書の教材を使用することもあります。が、実態に合わせて教材を作ります。その中でも「絵本」は、児童が興味をもちやすく、役割演技など体験活動もしやすい内容のものが多くあり、教材研究のしがいがあります。育成部会では、1つの絵本を教材にして各校の育成学級の実態に合わせて実践したことを交流しながら検討した授業を研究大会で提案します。



(今回教材化した絵本 鈴木出版「いじわる」せなけいこ)

◆自分の思いを表現しやすくする「パペット」の活用

育成学級の児童には、人の気持ちの理解や自分の思いを伝えることに困りをもつ児童も多くいます。そのような児童のために有効な手段の1つとして「パペット」があります。パペットを使って役割演技をすることで、登場人物の心情理解を深める支援になります。また自分の気持ちをそのまま表現することが苦手な児童も「パペット」を通して自分を客観視して思ったことや考えたことを表現することもできます。



◆児童の興味関心に合わせた教材の工夫

少人数での授業の強みを生かし、児童の興味関心に合わせた教材を工夫しています。クイズが好きな児童がいれば、クイズ形式の展開を考えたり、乗り物が好きな児童に合わせての乗り物を教材化したり、宝探し好きな児童にあわせ、「挿絵の入った封筒」を探す活動を導入に取り入れたりしています。



自分達が探し当てた封筒の中に入った挿絵には、ちょっとした特別感を感じるようです。

◆児童の発達段階や特性に合わせた、「ねらい」「評価」「学習活動」

育成学級の児童は、学年、発達段階、特性も様々です。そのため1つの授業の中に「ねらい」「評価」「学習活動」が児童によって違う指導案になっています。発達に応じて例えば「選択肢の中から選んで答える。」「思ったことを教師と一緒に考えて答える。」「自分で思ったことを答える。」など一人一人の困りに応じた授業づくりをしています。

学習の流れ	主な発問と予想される反応			指導上の支援 (○) 留意点(・)
	○発問 ◎中心発問 ・児童の反応	A・B・C児(発達4前後)	D・E・F・G児(発達5～7)	
導入 ・本時の見通しをもつ。 ・めあてを確認する。	・学習の流れを確認する。 ・本時のめあてを知る。	・学習の流れを確認する。 ・本時のめあてを知る。	・学習の流れを確認する。 ・本時のめあてを知る。	○学習の流れをボードに示し視覚的に流れが理解できるようにする。 ○出てきにくい場合は学校の住所をヒントに考える。
	ちいきのよいところをみつけよう ○自分たちは今どこに住んでいますか。			
展開前段 ・「ふうとうみつけ」をして本時の教材を知る。	・友達と一緒に封筒をみつけ教材に興味をもつ。	・順番を守りながら封筒をみつけて教材に興味をもつ。	・順番を守りながら封筒をみつけて教材に興味をもつ。必要に応じて下の学年の児童のサポートをする。	・自分でみつけるのが恥ずかしい児童は、サポート役に回ることができるようにする。 ○写真も提示することで問題のイメージをとらえやすくする。
	◎3ヒントをもとにグループで答えを考えましょう。			

◆自立活動との「合わせた指導」

育成学級では「自立活動」として「公共の約束」や「適切なコミュニケーション」などを身に付け、児童が社会で生きていくための力をつけていきます。道徳科の時間には、「適切な行動」の道徳的価値付けを行い、自立活動では、「適切な行動」について実践していきます。この2つの活動をうまく関連させ、1時間の授業の中で道徳科と自立活動について学ぶ「合わせた指導」も行っています。

道徳科の時間

「あいさつ」ってなぜ大切なのかな？
 「あいさつ」するとどんなことがおきるの？
 「あいさつ」っていいな。



「あいさつ」に対する道徳的価値について考える。

自立活動の時間

「あいさつ」をしてみよう。
 「あいさつ」したら気持ちいいな。
 「あいさつ」ってはずかしいけどやってみよう。



「あいさつ」を実践して、適切に行動する力を身につける。